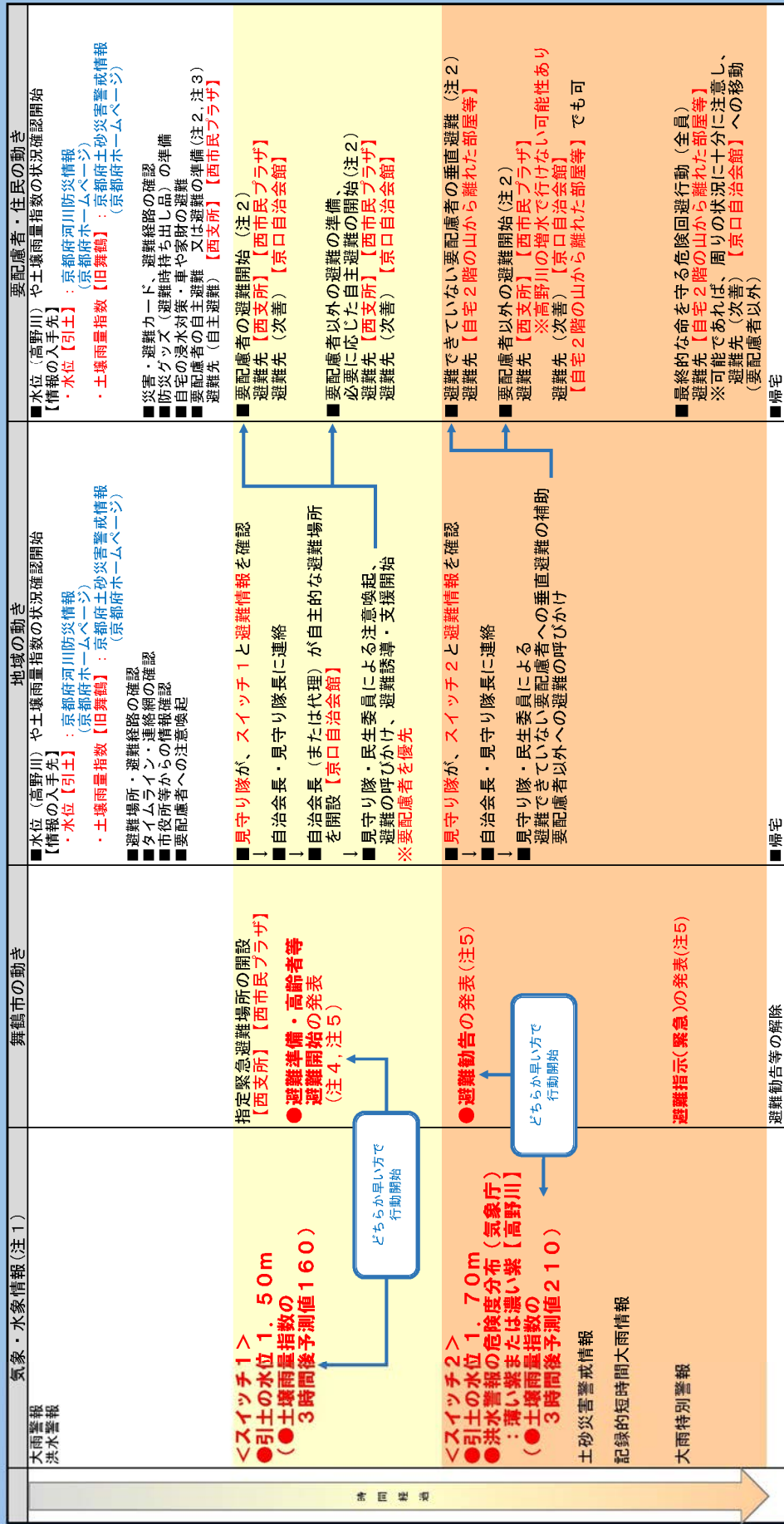


# 舞鶴市京口地区 水害等避難行動タイムライン【浸水害】



情報の入手先	
【スイツチや避難情報】	【情報の入手先】
引土の水位	京都市河川防災情報(京都市ホームページ)
土壌雨量指数の3時間後予測値	京都市土砂災害警戒情報(京都市ホームページ)
洪水警報の危険度分布	洪水警報の危険度分布(気象庁ホームページ)
避難情報	舞鶴市防災行政無線 (防災行政無線テレホンセンター: 62-7400) 緊急連絡メール、テレビのテロップ、テレビのdボタン まいつるメール配信サービス

注1: 気象・水象情報に関するタイミングについては、地域・事象によって異なります。  
 注2: 外出することが危険な場合(土砂が崩れ始めている場合や夜間の場合等)は、屋内の、山や斜面から離れた、より高い階へ避難しましょう。  
 注3: 指定緊急避難場所が開示された場合、スイツチの状況にかかわらず、自主的に避難することが出来ます。  
 注4: 気象状況に応じて、避難準備・高齢者等避難開始の発表を早める、もしくは避難勧告・避難指示(緊急)を発表する場合があります。  
 注5: スイツチの状況が起らなかった場合や、スイツチによって避難しなかった場合等には、ここで避難する必要がある場合があります。

# 各種防災情報の入手方法・登録方法について

水位情報を調べる  
 ▶ 確認先: 京都府河川防災情報  
<http://chisubousai.pref.kyoto.jp/>  
 スマートフォン版

京都府河川防災情報

「水位情報」をクリック

中丹東地域を地図でクリック

引上げをクリックしても確認可能

引上げをクリック

水位

観測所	観測日	観測時刻	水位	水位	水位	水位	水位	水位	水位	水位	水位	水位	水位	水位	水位	水位	水位	水位	水位	水位
高野川	2018/07/07	18:00	21.03	21.03	21.03	21.03	21.03	21.03	21.03	21.03	21.03	21.03	21.03	21.03	21.03	21.03	21.03	21.03	21.03	21.03

水位クラブで確認

※現在高野川では、氾濫危険水位等の水位は設定されていません。  
 ※平成30年7月豪雨災害時の状況を例として表示

手いづるメール配信サービスの登録方法  
 ▶ 確認先: 舞鶴市ホームページ  
<https://www.city.maizuru.kyoto.jp/kurashi/0000000142.html>  
 スマートフォン版

登録手順 1

登録手順 2

登録手順 3

登録手順 4

登録手順 5

登録手順 6

登録手順 7

洪水警報の危険度分布を調べる  
 ▶ 確認先: 気象庁ホームページ  
<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>  
 スマートフォン版

気象庁ホームページ

「洪水」が選択されていることを確認

地図を拡大

「閉じる」をクリック

洪水警報の危険度分布

高野川

2018年07月07日18:00分

東京都

※平成30年7月豪雨災害時の状況を例として表示

# 災害・避難カード

	高野川の氾濫	土砂災害
スイッチ (避難の合図)		
スイッチの 情報入手		
避難先	[自主的な避難場所]	
	[指定緊急避難場所]	
	[次善の避難場所]	

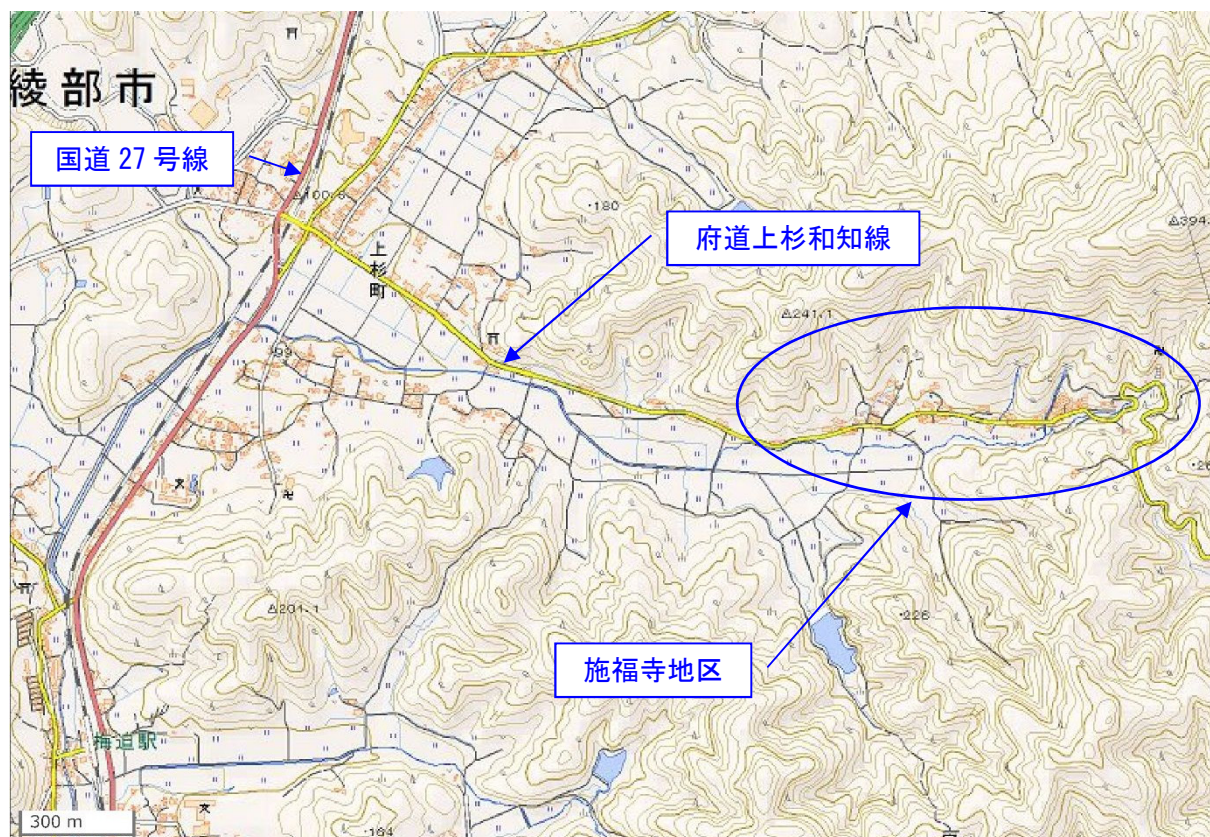
#### 4. 綾部市施福寺地区での取り組み

##### (1) 地域の概要【土砂災害】

綾部市施福寺地区は、蓮ヶ峯の南西に位置しており、国道27号線との交差点を起点とする府道上杉和知線が通る22世帯の地区である。

同地区において想定される災害は、集落を囲むように形成される山地における土砂災害である。地区内の谷底平野部は主に水田利用されており、家屋は山麓部を通る府道沿いに集中している。そのため、集落の背後に急傾斜地や土石流のおそれがある溪流を抱えている状況にある。平成30年7月豪雨では、地区内において土砂災害が発生し、死者3名という被害が発生した。

同地区は、高齢者の割合が高く、避難に関する支援体制の構築が課題として挙げられる。



(国土地理院の電子地形図(タイル)に追記して掲載)

図-4.1 位置図

(2) ワークショップの概要

ワークショップは、綾部市施福寺地区にある施福寺公民館にて計3回開催された。第1回、第2回ワークショップは3班編成、第3回ワークショップは1班編成としてグループ討議が行われた。また、ワークショップ全般において、学識経験者として三好岩生助教（京都府立大学 生命環境学部 森林科学科）に指導・助言をいただいた。

計3回のワークショップの実施状況を表-4.1、写真-4.1及び4.2に示す。

表-4.1 ワークショップの実施状況

【災害種別：土砂災害】

実施日時	実施内容	参加者・班編成
H30.12.15 13:00-15:00  第1回 ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ タイムラインの概要と作成目的の説明</li> <li>■ 土砂災害に対して、いつ・どこへどのように避難すべきか、学識経験者より解説</li> <li>■ ワークショップ①: H30.7 豪雨時の被害や前兆現象の抽出</li> <li>■ ワークショップ②: H30.7 豪雨時の住民行動の振り返り</li> <li>■ 情報のグループ分け、関連の整理</li> <li>■ 全体での議論・共有</li> <li>■ 学識経験者より講評</li> </ul>	住民：14名 参加人数から意見が出やすいように3班に編成（近い居住地区の住民同士で分ける）  市（総務防災室） 府（防災消防企画課、災害対策課、中丹広域振興局）
H31.1.24 19:00-21:00  第2回 ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第1回ワークショップの振り返り（地区における現状の課題整理）</li> <li>■ 学識経験者より土砂災害を対象とした避難に関連する情報の解説</li> <li>■ ワークショップ①：どこへ逃げるべきか、次善策（セカンドベスト）を含めた避難先と避難時の注意点等を抽出</li> <li>■ ワークショップ②：いつ逃げるべきか、スイッチになり得る情報と基準値、被害や前兆現象の抽出</li> <li>■ 全体での議論・共有</li> <li>■ 学識経験者より講評</li> </ul>	住民：16名 参加人数から意見が出やすいように3班に編成（近い居住地区の住民同士で分ける）  市（総務防災室） 府（防災消防企画課、災害対策課、中丹広域振興局）
H31.2.25 19:00-21:00  第3回 ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第2回ワークショップの振り返り（抽出された避難先や避難時注意点のマップ整理、スイッチ案のリストアップ）</li> <li>■ 学識経験者より、段階に応じたスイッチのあり方、スイッチの情報の流れを解説</li> <li>■ ワークショップ①：第2回ワークショップで抽出されたスイッチ案から、既往災害や地区特性を踏まえて、段階に応じたスイッチを選定</li> <li>■ ワークショップ②：タイムラインにおける役割分担の検討</li> <li>■ 全体での議論・共有</li> <li>■ 学識経験者より全体総括</li> </ul>	住民：17名 災害の特性が似ており地区全体のスイッチの検討をするため、1班編成で行う <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">  ポイント①         </div>  市（総務防災室） 府（防災消防企画課、災害対策課、中丹広域振興局）



学識経験者の講義



第1回ワークショップの様子  
(①H30.7 豪雨時の被害や前兆現象の抽出)



第1回ワークショップの様子  
(②H30.7 豪雨時の住民行動の振り返り)



第2回ワークショップの様子  
(①どこへ逃げるべきか)



第2回ワークショップの様子  
(②いつ逃げるべきか)



第3回ワークショップの様子  
(①スイッチの選定)

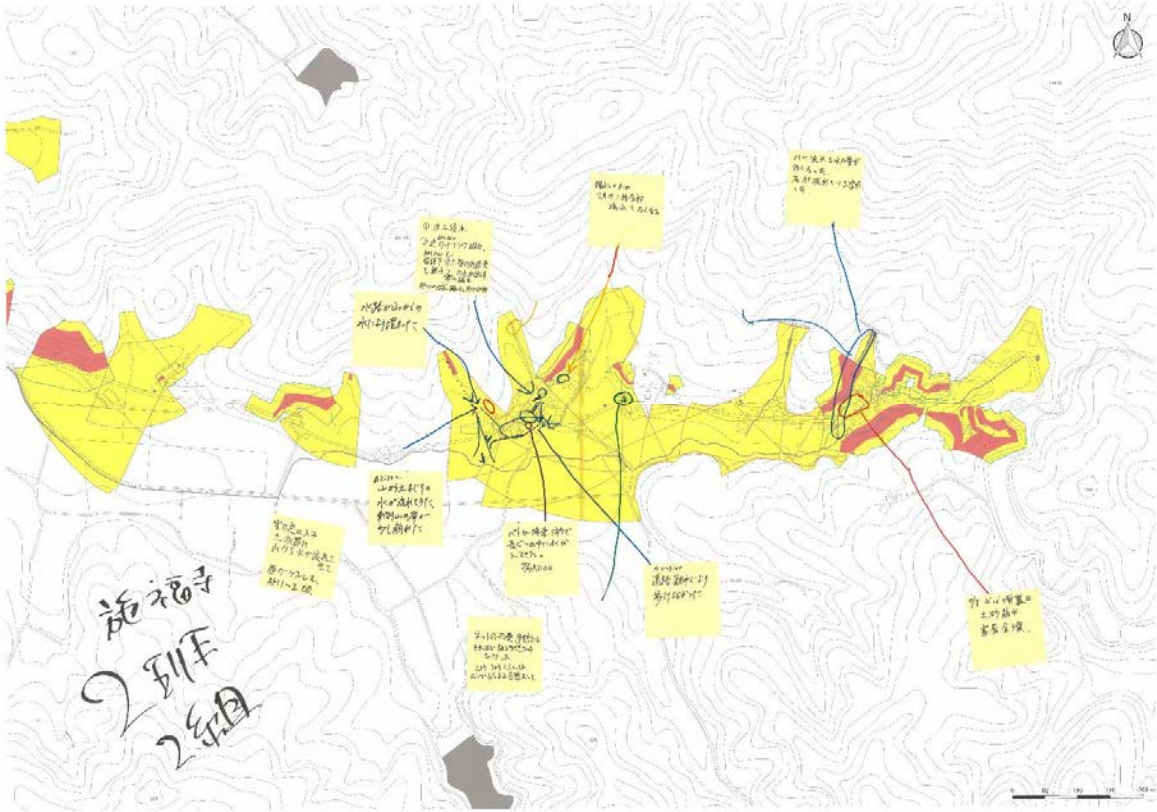


第3回ワークショップの様子  
(②役割分担の検討)

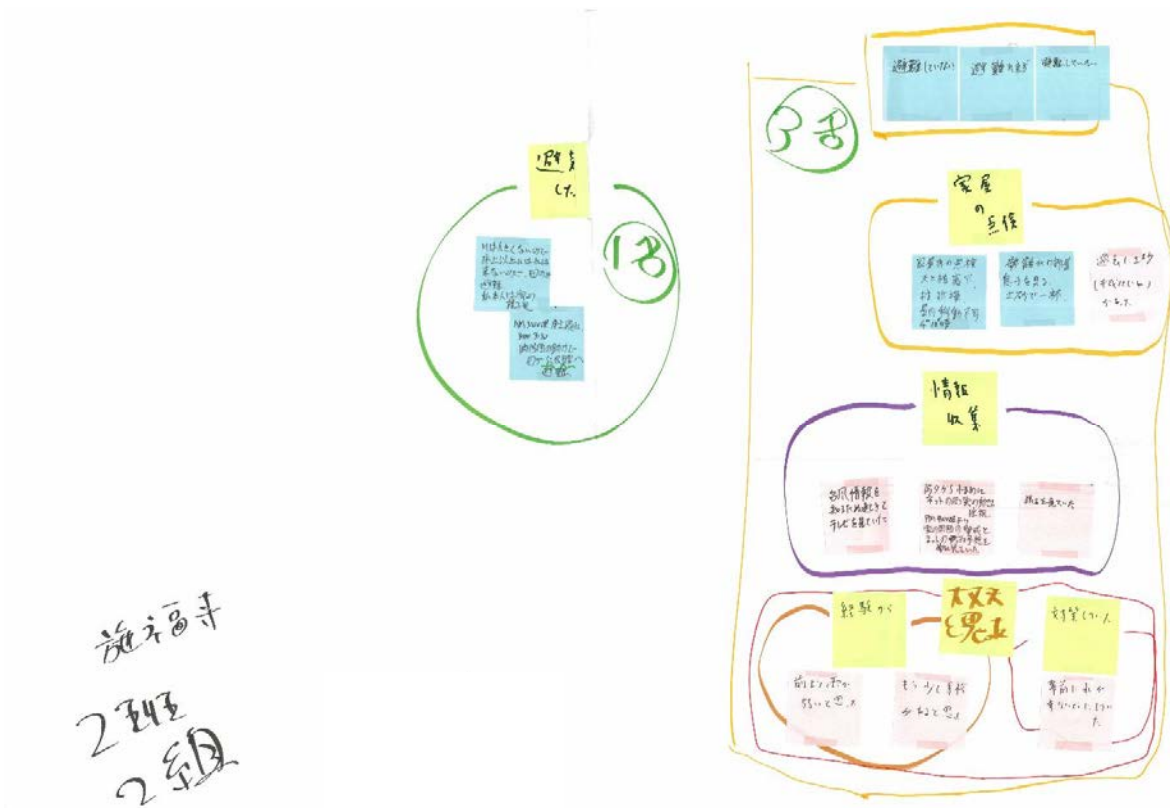


第3回ワークショップの様子  
(全体での議論・共有)

写真-4.1 ワークショップの実施状況



第1回ワークショップ (①H30.7 豪雨時の被害や前兆現象の抽出)



第1回ワークショップ (②H30.7 豪雨時の住民行動の振り返り)

写真-4.2(1) ワークショップによる各班の成果 (例)

避難先	移動の手段・時間	避難路の状況・注意点	どんな方が・どんな時に
(指定避難所) 八田中学校 東八田小学校 上杉体育館	行かない 4km弱 50分以内 (45分) 車で20分	遠い 道路状況 悪化	
(地域の避難所) ※ セカンドベスト 公民館	近い 5~10分 徒歩	よくある	気軽に 来れる 安心 顔見知り なので良い
(その他:自宅の2階など) 病室場所 を変える			

第2回ワークショップ (①どこへ逃げるべきか)

行動	スイッチ	気象情報 避難情報	雨量観測値 土壌雨量指数	前兆現象など
事前の避難	(指定避難所) 東八田 八田中	避難指示 (ハザード) 避難指示 (注意)		谷の水が濁る 水がにごっている (この茶色) 大木の根が 揺れてきた (音で判断)
	(地域の避難所) ※ セカンドベスト 施福寺公民館	避難指示が 出た時に避難 (注意) TVを見て (気象情報)	160 土壌 180 土壌	
緊急の避難	(その他:自宅の2階など) 自宅			
必要な対応		避難指示が出た時に 避難 事前に避難 場所を確認 しておく 声かけ	(160)は 警戒レベル	無 影響なし

第2回ワークショップ (②いつ逃げるべきか)

写真-4.2(2) ワークショップによる各班の成果 (例)



	気象情報 避難情報	土壌雨量指数 雨量観測値	前兆現象など
スイッチ	大雨警報 避難準備・高齢者等避難開始発令	スイッチ①: 市の避難準備・高齢者等避難開始の発令より先に動くためのスイッチ ~160(土壌雨量指数) 140	道路が冠水する前に行動を起こす 指定避難所までの移動手段の確保(要配慮者)、車に乗り合わせて避難
	避難勧告が出る前に避難(台風)雨雲レーダーで強い雨 避難勧告発令	スイッチ②: 市の避難勧告の発令より先に動くためのスイッチ 180(土壌雨量指数)	川の水位、川と川の間で水があふれる農道への越水 家裏の小川があふれる谷の山水の出水、水が濁っていた大きな石が流れる音
	避難指示(緊急)発令	だれが情報をチェックするのか?	

	指定緊急避難場所	地域の避難場所 セカンドベスト	避難場所への移動が困難な場合
スイッチ	東八田小学校 八田中学校 上杉体育館 東八田公民館 研修センター 地区の状況に最も適した指定避難所の選定	施福寺公民館	自宅 知人の家 寝室の変更 施福寺公民館は自宅より安全か?

### 第3回ワークショップ (①スイッチの選定)

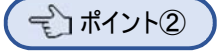
スイッチ	スイッチの確認			自治会長による体制の宣言	行動(声かけ・避難誘導、避難所を開ける等)	
	誰が	どのように確認するのか	どうするか		誰が	何を
大雨警報						
土壌雨量指数 140	松さん 田中さん	京都府HP	自治会長(富田) 長:連絡(101)	自治会長	会長→副会長:101 / 副会長→田中さん 田中さん→松さん:連絡:101 / 松さん→田中さん:声かけ・声かけ、避難所へ誘導	
避難準備・高齢者等 避難開始						
土壌雨量指数 180 小川の水が濁り	松さん・田中さん 見下す人		自治会長(石原)・副会長:101 ・副会長(田中)・田中 ・自治会長:101	自治会長	会長→副会長:101 / 副会長→田中さん 田中さん→松さん:連絡:101	
避難勧告・避難指示 (緊急)						

### 第3回ワークショップ (②役割分担の検討)

写真-4.2(3) ワークショップによる各班の成果 (例)

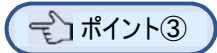
(3) 作成されたタイムライン

綾部市施福寺地区から指定緊急避難場所の東八田小学校までの経路において、道路冠水する可能性がある。実際、平成 30 年 7 月豪雨の際には、道路冠水により移動ができなくなっていた。したがって、早期の避難行動開始と次善の避難場所（セカンドベスト）の選定が重要になる。次善の避難場所として選定された施福寺公民館は土砂災害警戒区域内に位置するが、地区内では比較的安全な場所として選定された。



同地区のスイッチに関しては、土砂災害に対応したものとして「土壌雨量指数の 3 時間後予測値」を用いることとし、スイッチ 1（避難準備・高齢者等避難開始の発令までに高齢者等が自らの判断で避難を開始するスイッチ）は 140、スイッチ 2（避難勧告の発令までに一般の住民の方が自らの判断で避難するスイッチ）は 180 という数値が設定された。これらの数値は、平成 30 年 7 月豪雨災害を含めた既往の豪雨災害時（平成 29 年台風第 21 号、平成 26 年 9 月豪雨）の土壌雨量指数の推移とそれぞれの災害時の被害の有無を参考に決定した。また、スイッチ 2 には、平成 30 年 7 月豪雨の体験から、「家の裏の小川から水があふれる」、「山水が激しくなり、濁る」といった危険な兆候の発見も設定された。

土壌雨量指数や避難情報の入手には、以前から地区内で選任されている「情報・広報班」が割り当てられた。また、同地区は高齢者が多いため、指定緊急避難場所への移動について、「各組で声をかけ合い、車に乗り合わせて移動」することが明記された。



タイムラインの裏面には土壌雨量指数を確認する「京都府土砂災害警戒情報」、雨量を確認する「京都府河川防災情報」の解説や QR コードを示した。

作成されたタイムラインを次頁に示すとともに、概要を表-4.2 に示す。

表-4.2 綾部市施福寺地区のタイムライン概要

災害種別	土砂災害
指定緊急避難場所	東八田小学校
次善の避難場所	施福寺公民館
スイッチ 1	土壌雨量指数の 3 時間後予測値 140
スイッチ 2	土壌雨量指数の 3 時間後予測値 180 危険な兆候 ・家の裏の小川から水があふれる ・山水が激しくなり、濁る

綾部市施福寺地区 水害等避難行動タイムライン【土砂災害】

時間経過	気象情報(注1)	綾部市の動き	地域の動き	住民・要配慮者の動き
	大雨警報 洪水警報		<ul style="list-style-type: none"> <li>大雨や土壌雨量指数の状況確認開始</li> <li>市役所・消防団等との情報共有</li> <li>連絡網による要配慮者への注意喚起、避難の呼びかけ</li> <li>自主避難場所の開設 自主避難先：【施福寺公民館】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大雨や土壌雨量指数の状況確認開始</li> <li>防災グッズ（避難時持ち出し品）の準備</li> <li>家の周りの安全対策</li> <li>要配慮者の自主避難又は避難の準備(注2,注3) 自主避難先：【施福寺公民館】</li> </ul>
	<p>&lt;スイツチ1&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●土壌雨量指数の3時間後予測値140</li> </ul> <p>どちらか早い方で 行動開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●避難準備・高齢者等避難開始の発令(注4,注5)</li> </ul> <p>指定緊急避難場所の開設 【東八田小学校】(注6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報・広報紙が、スイツチ1と避難情報を確認</li> <li>↓</li> <li>自治会長（または副会長）へ連絡</li> <li>↓</li> <li>電話または直接による情報伝達(注7)</li> <li>↓</li> <li>避難の呼びかけ、要配慮者の避難誘導開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要配慮者の避難開始(注2)</li> <li>指定緊急避難場所：【東八田小学校】</li> <li>避難先(次善)：【施福寺公民館】</li> </ul>
	<p>&lt;スイツチ2&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●土壌雨量指数の3時間後予測値180</li> <li>●危険な兆候</li> <li>●家の裏の小川から水があふれる</li> <li>●山水が激しくなり、濁る</li> </ul> <p>土砂災害警戒情報</p> <p>大雨特別警報 記録的短時間大雨情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●避難勧告の発令(注5)</li> </ul> <p>どちらか早い方で 行動開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報・広報紙が、土壌雨量指数の3時間後予測値、避難情報を確認</li> <li>↓</li> <li>自治会長（または副会長）へ連絡</li> <li>↓</li> <li>電話または直接による情報伝達(注7)</li> <li>↓</li> <li>避難の呼びかけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自が、危険な兆候（家の裏の小川から水があふれる・山水が激しくなり、濁る）を発見</li> <li>●要配慮者以外の避難開始(注2)</li> <li>指定緊急避難場所：【東八田小学校】</li> <li>避難先(次善)：【施福寺公民館】</li> </ul>
		避難勧告等の解除		<ul style="list-style-type: none"> <li>最終的な危険回避行動(全員)</li> <li>※自宅の2階の山から離れた部屋等へ避難可能であれば、周りの状況に十分注意し、次善の避難先へ移動</li> <li>●帰宅</li> </ul>

注1：気象情報に関する発表等のタイムラインについては、地域・事象によって異なります。  
 注2：外出するものが危険な場合（土砂が崩れ始めている場合や夜間の場合等）は、屋内の、山や斜面から離れた、より高い階へ避難しましょう。  
 注3：自主避難場所が開設された場合、スイツチの状況にかかわらず、自主的に早めに避難することが出来ます。  
 注4：避難準備・高齢者等避難開始は発令されないうちに、自主的に避難することがあります。  
 注5：スイツチの状況が起った場合や、スイツチから開設とならないうちに、自主的に避難することがあります。  
 注6：避難準備・高齢者等避難開始の発令がでたから開設とならないうちに、自主的に避難することがあります。  
 注7：基本的な情報伝達の流れは、自治会長（または副会長）→各組長→組員となります。  
 注8：東八田小学校が開設されたら移動する。それまでは、施福寺公民館への移動か東八田小学校への移動準備を行う。  
 注9：指定緊急避難場所の東八田小学校へは、道路冠水で行けない可能性ががあります。

○避難情報を調べる

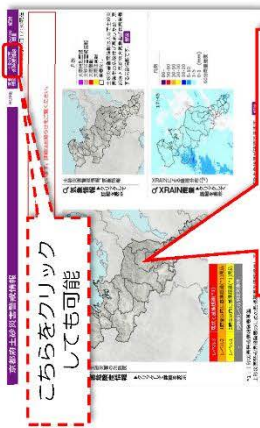
▶ 確認先: 緊急速報メール、テレビのテロップ、あやべー(登録制メール)、ライブビジョン(タブレット)等で確認

○土砂災害警戒情報・土砂災害危険度を調べる

▶ 確認先: 京都府土砂災害警戒情報  
<http://d-keikai.pref.kyoto.jp/Top.aspx>



土壌雨量指数とは、降った雨による土砂災害危険度の高まりを把握するための指標です。大雨に伴って発生する土砂災害(かけ崩れ・土石流)には、現在降っている雨だけでなく、これまでに降った雨による土壌中の水分量が深く関係しており、土壌雨量指数は、降った雨が土壌中に水分量としてどれだけ溜まっているかを、タンクモデルを用いて数値化したものです。土壌雨量指数は、各地の気象台が発表する大雨警報(土砂災害)や土砂災害警戒情報等の判断基準に用いています。(気象庁HPより)



こちらをクリックしても可能

京都府の画像をクリック

地図を拡大

見たい地域をクリック

履歴時間を10分にする

3時間後予測値

土壌雨量指数

見たい観測所をクリック

雨量グラフ

時間雨量と累加雨量

雨量情報を調べる

確認先: 京都府河川防災情報

<http://chisuibousai.pref.kyoto.jp/>

スマートフォン版

携帯版

スマートフォン版

携帯版

スマートフォン版

携帯版

スマートフォン版

携帯版

スマートフォン版

携帯版

スマートフォン版

携帯版

○雨量情報を調べる

▶ 確認先: 京都府河川防災情報  
<http://chisuibousai.pref.kyoto.jp/>



「雨量情報」をクリック

中丹軍地域を地図でクリック

十倉中またははたしと岐をクリックしても確認可能

見たい観測所をクリック

雨量グラフ

時間雨量と累加雨量

雨量情報を調べる

確認先: 京都府河川防災情報

<http://chisuibousai.pref.kyoto.jp/>

スマートフォン版

携帯版

スマートフォン版

携帯版

スマートフォン版

携帯版

スマートフォン版

携帯版

スマートフォン版

携帯版

スマートフォン版

携帯版

スマートフォン版

携帯版

スマートフォン版

携帯版

スマートフォン版

携帯版

# 災害・避難カード

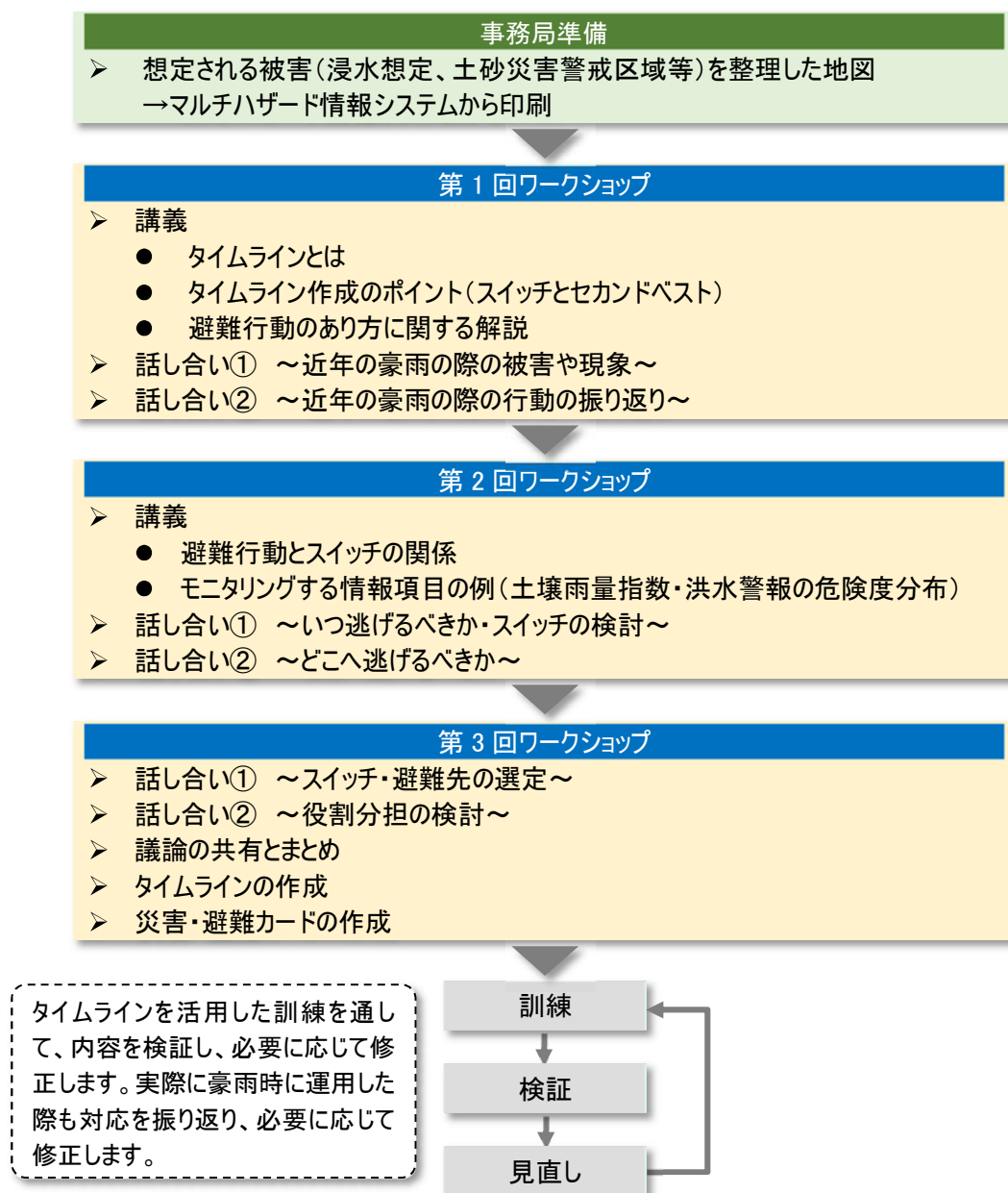
スイッチ (避難の合図)	<スイッチ1> ●土壌雨量指数の3時間後予測値が140  <スイッチ2> ●土壌雨量指数の3時間後予測値が180 ●危険な兆候 ・家の裏の小川から水があふれる ・山水が激しくなり、濁る
スイッチの 情報入手	・土壌雨量指数:京都市府土砂災害警戒情報で、情報を入力 ・危険な兆候:現地で確認
避難先	[自主避難場所]
	[指定緊急避難場所]
	[次善の避難場所]

※ 施福寺公民館以外へ避難する場合、近くの住民に連絡すること

## Ⅱ. 水害等避難行動タイムライン作成の手引き

### 1. タイムライン作成の流れ

自治会の役員や地域住民、自主防災組織や消防団等が集まって、ワークショップ形式でタイムラインを作成します。下記にタイムライン作成の流れを示します。





タイムラインの考え方やひな型については、「水害等避難行動タイムライン作成指針」(平成30年5月京都府)を参照してください。

## 2. ワークショップの進め方

### (1) 第1回ワークショップ

1 回目のワークショップは、タイムラインとは何かを参加者に理解してもらうこと、過去の豪雨の際の被害や行動から、避難に関する課題を抽出・整理することが主な目的になります。下記に、ワークショップの進め方を示します。

<p>■タイムラインとは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「いつ」「どこへ」「どのように」するのかを定める防災計画</li> <li>地域住民等が協力することで、早めの避難行動が可能となる</li> </ul> <p>&lt;タイムラインのイメージ&gt; (平成31年3月幹部ワークショップより)</p> 	<p>最初に、ワークショップ参加者に「タイムライン」がどのようなものかを説明します。</p> <p>「タイムライン」とは「いつ」「どこへ」「どのように」するのかを時系列に沿って定めた防災計画です。関係者が連携して、速やかに避難できるようにするために作成するものです。</p>
<p>タイムラインの作成 【ポイント】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「いつ」逃げるのか →「スイッチ」(自主的な避難を開始するための目安)を設ける &lt;例&gt;「最初にこの家が浸かる」「時間雨量が〇〇mmになった」</li> <li>「どこへ」逃げるのか →市町村が指定する避難場所の他、近隣に「<u>次善の避難場所</u>」(セカンドベスト)を見つけましょう &lt;例&gt;「近所の公民館」</li> <li>「どのように」逃げるのか →「<u>役割分担</u>」を設ける &lt;例&gt;自治会役員Aさんが、情報収集をする、Bさんが避難の呼びかけをする</li> </ol>	<p>タイムラインの作成に関する 3 つのポイントを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自主的な避難を開始するための目安「スイッチ」を設けること。</li> <li>市町村が指定する避難場所の他、そこまでたどりつけない場合に備えて、近隣に次善の避難場所(セカンドベスト)を見つけること。</li> <li>地域内で避難時の役割分担を設けること。</li> </ul> <p>ここで、「スイッチ」と「セカンドベスト」というキーワードを定義します。</p>
<p>命を守るためには <b>避難する!</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いつ避難するべきか?</li> <li>どこへ避難するべきか?</li> <li>どのように避難するべきか?</li> </ul> <p>誰かの「ひと声」が人を動かす</p>	<p>避難行動のあり方について解説します。「いつ」「どこへ」「どのように」避難するのか、状況に応じた情報の取得、避難場所や避難経路の判断、避難時の協力体制など、基本的な事項を説明します。</p>
<p>いつ避難するべきか?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★雨量情報</li> <li>★河川の水位情報</li> <li>★浸水害の危険度分布</li> <li>★土砂災害警戒メッシュ情報</li> <li>★土壌雨量指数(予測値)</li> <li>★避難勧告・避難指示(緊急)</li> <li>★前兆現象(例:山水が激しくなり、濁る)</li> </ul> <p>自分たちで情報を取りに行く! ラジオ、テレビ(dボタン)、パソコン・スマートフォン</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・きょうと危機管理web</li> <li>・国土交通省「川の防災情報」</li> <li>・気象庁「防災情報」</li> </ul>	<p>テレビやインターネット等により提供される様々な情報、地域内で生じる災害の前兆現象等の情報を活用し、「いつ避難するべきか」判断します。これらの情報は、自ら積極的に収集する必要があります。</p>

<p><b>・どこへ避難すべきか？</b></p> <p>◇「雨が強くなる前」「明るい時間帯」 指定避難場所 安全な親戚・知人宅 などでもよい</p> <p>◇「雨が強くなった後」「暗い時間帯」 近所のできるだけ安全な場所 最低限、自宅の2階の山から離れた部屋 など</p> <p><b>危険性のある経路を通っての避難は避ける</b> (標高の低い箇所、川を横断する道、水路の横、斜面の横など)</p> <p style="text-align: right;">8</p>	<p>「どこへ避難すべきか」では、指定の避難場所だけでなく、避難が遅れた場合の次善の避難場所として、近所のできるだけ安全な場所や自宅の2階の山から離れた部屋などに避難するという選択肢を提示します。</p> <p>また、危険性のある避難経路についても言及します。</p>
<p><b>・どのように避難すべきか？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ、避難時の協力関係や役割分担を決めておく</li> <li>・(可能であれば)自主防災組織(自治会)が情報を集約し、連絡や避難の呼びかけ</li> <li>・隣り近所で声を掛け合う</li> <li>・消防団の支援を得る</li> </ul> <p style="text-align: right;">9</p>	<p>あらかじめ避難時の役割分担(例えば、インターネットで情報を収集する人等)を決めておいたり、隣近所で声を掛け合いながら避難するなど、「どのように避難すべきか」を説明します。</p>
<p><b>「近年の豪雨の際の被害や現象」</b></p> <p>① お住まいや、その近くであった被害 ② 被害が発生する前に、気づいた現象</p> <p>について、黄色のふせんに書いて下さい</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>山から土まじりの水が流れてきた</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1枚のカードには、<b>ひとつの事柄を文章として書く</b>(体言止めをしない)</li> <li>・ 簡潔に書く</li> <li>・ 思いついたことはなんでも書いてみる</li> <li>・ ハザードマップに貼っていく</li> </ul> <p style="text-align: right;">11</p>	<p style="text-align: center;"><b>【話し合い①】</b></p> <p>話し合い①では、近年の豪雨の際の被害や現象について、参加者から情報を引き出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自宅やその近くであった被害</li> <li>● 被害が発生する前に気づいた現象</li> </ul> <p>を参加者に書いてもらい、白地図に貼って共有します。</p> <p>避難時の危険箇所、避難開始の目安となる現象を明らかにします。</p> <p>※白地図は京都府マルチハザード情報提供システム(<a href="http://multi-hazard-map.pref.kyoto.jp/">http://multi-hazard-map.pref.kyoto.jp/</a>)からダウンロードできます。地域の浸水想定区域図や土砂災害警戒区域についても同システムで調べることができます。</p>
<p><b>「近年の豪雨の際の行動」</b></p> <p>① 避難に関する行動を青色のふせんに書き出します ② そのきっかけがあれば、ピンクのふせんに書き出します</p> <p>※「避難しなかった」場合、その「理由」を考えてみて下さい</p> <p>③ 模造紙に順番に貼っていき、共有します ④ グループ分けをして、避難したきっかけや決め手、その他気づいたことを考えます</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; text-align: center;">公民館 へ避難した</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; text-align: center;">避難しなかった</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; text-align: center;">消防団 からのよびかけ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; text-align: center;">危険だと は分らなかった</div> </div> <p style="text-align: right;">14</p>	<p style="text-align: center;"><b>【話し合い②】</b></p> <p>話し合い②では、近年の豪雨の際にとった各自の行動を引き出します。</p> <p>参加者に災害時の避難に関する動きと、そのきっかけを書いてもらいます。避難しなかった人にはその理由を書いてもらいます。</p> <p>記入したふせんは模造紙に貼って共有します。また、ふせんの内容が似ているもの同士をグルーピングしながら、避難の決め手や必要なものを考えていきます。</p>
<p>第1回ワークショップの内容はここまでです。複数のグループで実施した場合は、ワークショップ①、②の内容を発表し合い共有します。</p>	



(2) ワークショップ②

2 回目のワークショップは、避難の目安となるスイッチをどのように設定して「いつ避難するか」、次善の避難場所「セカンドベスト」を含めて「どこへ避難するか」を検討することが主な目的です。そのため、状況に応じたスイッチのイメージ、スイッチとなり得る情報の解説を行います。下記に、ワークショップの進め方を示します。

<p>・いつ避難するべきか？</p> <p><b>事前避難</b></p> <p>スイッチ1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「避難準備・高齢者等避難開始」の発令</li> <li>水位や土壌雨量指数(自治会でモニタリング)</li> </ul> <p>高齢者の方などで、指定緊急避難場所までたどりつけないときは、次善の避難場所に避難する</p> <p><b>事前避難</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>余裕をもって</li> <li>長時間も想定して</li> <li>誘い合って</li> <li>消防団とも連携</li> </ul> <p>避難場所は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定緊急避難場所</li> <li>近所の公民館、知人宅など</li> </ul>	<p>自主的な避難を行うための目安であるスイッチについて考えます。</p> <p>スイッチは「スイッチ1：事前避難」と「スイッチ2：緊急避難」の二つを設定します。</p> <p>「スイッチ1」は、大雨が予想される際に、余裕を持って行う避難の基準であり、「避難準備・高齢者等避難開始」の発令、水位や土壌雨量指数等がスイッチの候補として挙げられます。</p>
<p>・いつ避難するべきか？</p> <p><b>緊急避難</b></p> <p>スイッチ2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「避難勧告」「避難指示(緊急)」の発令</li> <li>水位や土壌雨量指数(自治会でモニタリング)</li> <li>「洪水警報の危険度分布」が薄い紫(非常に危険)</li> <li>前兆現象</li> </ul> <p>大雨や夜間のため、指定緊急避難場所に行くのが危険な時は、次善の避難場所に避難する</p> <p><b>緊急避難</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>焦らず、急いで</li> <li>安全な経路で</li> <li>誘い合って</li> <li>消防団とも連携</li> </ul> <p>避難場所は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定緊急避難場所</li> <li>近所の公民館、知人宅</li> <li>自宅の2階の山から離れた部屋など</li> </ul>	<p>スイッチ2は、すでに大雨が降っており、緊急に行われる避難の基準です。</p> <p>「避難勧告」「避難指示(緊急)」の発令、水位や土壌雨量指数、前兆現象等がスイッチの候補として挙げられます。</p>
<p>土砂災害危険度情報・土壌雨量指数 →京都府HP「京都府土砂災害警戒情報」で確認</p>  <p>レベル1 現状で基準超過(*)</p> <p>レベル2 1時間以内に基準超過(*)見込</p> <p>レベル3 2時間以内に基準超過(*)見込</p> <p>危険度レベル判定対象外</p> <p>土砂災害危険度情報: <b>1km四方の領域(1kmメッシュ)</b> ごとに3段階で表示</p>	<p>土砂災害を対象とする場合、土壌雨量指数について解説します。</p> <p>土壌雨量指数は、土砂災害の危険度を示す指標として有用であり、土砂災害に対応したスイッチになり得ます。</p> <p>「京都府土砂災害警戒情報」で確認できること、雨量判定図の見方や土壌雨量指数の3時間後予測値まで確認できること等を説明します。</p> <p>(<a href="http://d-keikai.pref.kyoto.jp/">http://d-keikai.pref.kyoto.jp/</a>)</p>
<p>洪水警報の危険度分布 事例 平成29年 赤谷川等の洪水害 (福岡県朝倉市) 気象庁</p> <p>平成29年7月5日13時30分</p> <p>3時間先までの予測</p> <p>水位計のない河川において、予測値が警報基準を大きく超過(薄い紫色)</p> <p>遅くとも薄い紫で判断を</p> <p>遅くとも薄い紫(13:30)で避難を開始することが重要</p> <p>わずか55分後(14:25)赤谷川で氾濫発生通報</p> <p>薄い紫が出現してからでは「重大な災害がすでに発生している可能性が高い極めて危険な状況となることから、できる限り早めの避難を心がけ「遅くとも薄い紫が出現した段階で」(洪水害については河川水位などの現況も確認した上で)速やかに避難開始の判断をすることが重要です。</p> 	<p>浸水害を対象とする地域では、気象庁から提供されている「洪水警報の危険度分布」について紹介します。これは中小河川の洪水が発生する危険度を3時間先まで予測するものです。</p> <p>「薄い紫」が出現すると非常に危険な状態であり、この時点で避難する必要があります。</p> <p>(<a href="https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html">https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html</a>)</p>

「いつ逃げるべきか(スイッチの検討)」  
・各グループで話し合い、空欄を埋めてみましょう

【例】

	緊急時域 洪水警報の危険度分布 避難準備	避難開始時 水浸し警報 土砂災害警戒	前夜雨量など
【自主避難場所】 〇〇川の水位が〇〇cm 避難準備・高齢者等避難開始発令		土壌雨量指数の3時間後予測値が〇〇	
【指定緊急避難場所】 〇〇小学校 〇〇センター	洪水警報の危険度分布で「高い(黄色)」 避難開始発令	土壌雨量指数の3時間後予測値が〇〇	危険な地域 (家の窓のガラスが割れる) (山が崩れやすくなり、濁る)
【次善の避難場所】 〇〇自治会館	避難指示(緊急)発令		

25

【話し合い①】

話し合い①では、左図の検討シートを用いて、いつ逃げるべきかを示すスイッチを検討します。

事前の避難と緊急の避難の二つのスイッチについて、具体的な情報の種類や数値を話し合います。

「どこへ避難するべきか」  
・各グループで話し合い、空欄を埋めてみましょう

【例】

	避難先	移動の手段・時間	避難路の状況・注意点	どんな方がどんな時に
【自主避難場所】 〇〇自治会館		徒歩3分	夜は、懐中電灯が必要	指定緊急避難場所まで行けない時
【指定緊急避難場所】 〇〇小学校 〇〇センター		車で10分 車で15分	道路冠水	危険のある避難が出来る時間帯がある時
【次善の避難場所】 〇〇自治会館		徒歩3分	夜は、懐中電灯が必要	指定緊急避難場所まで行けない時

※自主避難場所とは、ここでは、「避難準備・高齢者等避難開始」の発令がされる前に、住民自らの判断で避難する場所をいいます。  
※最終的な危険回避行動は、自宅の2階の山から離れた部屋や近隣の高い建物等へ避難することです。

27

【話し合い②】

話し合い②では、左図の検討シートを用いて、どこへ逃げるべきかを話し合います。

「避難準備・高齢者等避難開始」の発令がされる前に、住民自らの判断で避難する「自主避難場所」、「指定緊急避難場所」、「次善の避難場所」の具体的な場所を記入します。また、それぞれについて、「移動の手段・時間」、「避難路の状況・注意点」、そして「どんな方」が「どんな時」に避難するののかについて、各グループで話し合います。

第2回ワークショップの内容はここまでです。複数のグループで実施した場合は、ワークショップ①、②の内容を発表し合い共有します。

【参考事例】

地区	話し合い①	話し合い②
福知山市 報恩寺地区	セカンドベストとして、地域の公民館の他、寺院・教会、浸水や土砂災害の危険性が低い個人宅が挙げられました。	行政が発令する避難勧告等の他、土壌雨量指数（実況値や3時間後予測値）、土砂災害危険度情報、時間雨量、洪水警報の危険度分布等がスイッチ案として挙げられました。
舞鶴市 京口地区	セカンドベストとして、自治会館の他、寺社や高い建物が挙げられました。	高野川（引土）の水位、洪水警報の危険度分布に加えて、地区内及び周辺の被害状況（側溝の水があふれる、道路が冠水する等）がスイッチ案として挙げられました。
綾部市 施福寺地区	セカンドベストとして、地域の公民館が挙げられました。	土壌雨量指数の他、地区内の小川から水があふれたり、谷から流れてくる山水が濁ったりする現象がスイッチ案として挙げられました。

(3) ワークショップ③

3回目のワークショップは、複数のスイッチ案と避難先案から地域に適したものを選定し、さらにタイムラインが災害時に運用できるように役割分担を決めます。下記に、ワークショップの進め方を示します。

<p style="text-align: center;"><b>「スイッチ・避難先の選定」</b></p> <p style="text-align: right;">自治会として</p> <p style="text-align: center;">第2回ワークショップの意見から、避難先を選ぶ</p> <p style="text-align: center;">※ 避難情報が発令された場合、その内容に従うこと 31</p>	<p style="text-align: center;"><b>【話し合い①】</b></p> <p>話し合い①では、検討シートを用いて、自治会として「いつ」避難するか、また、「どこへ」避難するかについて、第2回ワークショップの意見を元に話し合います。</p>
<p style="text-align: center;"><b>「役割分担の検討」</b></p> <p style="text-align: center;">33</p>	<p style="text-align: center;"><b>【話し合い②】</b></p> <p>話し合い②では、左図の検討シートを用いて、各スイッチについて、地域における役割分担を話し合います。このとき、「誰が」スイッチを「どのように確認」し、次に「どうするか」について検討します。さらに、そうした行動を受けて自治会長など「誰が」、情報伝達や避難の呼びかけを行うのか等を検討します。</p>
<p style="text-align: center;"><b>タイムラインの確認(20分)</b></p> <p style="text-align: center;">スイッチや避難先、役割分担について全員で確認し、タイムラインのひな型に記入しましょう。(グループで分かれて話し合った場合は、一つにまとめるのかななどを議論しましょう。)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">タイムラインの完成</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">災害・避難カードについても記載しましょう</p> <p style="text-align: center;">※ 持ち帰って記載してもかまいません 34</p>	<p>最後にスイッチや避難先、役割分担について全員で確認します。また、グループに分かれて話し合った場合は、話し合い①、②を発表・共有をした上で、地域全体でまとめられないか検討します。</p>
<p style="text-align: center;"><b>タイムラインひな型への記入</b></p> <p style="text-align: center;">35</p>	<p>タイムラインのひな型に、選定したスイッチ、避難先、役割分担（スイッチの確認者）などを空白部分に記入して、タイムラインは完成です。</p>

<p align="center"><b>災害・避難カードの作成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>整理した避難行動について、「災害・避難カード」を作成します。</li> </ul> <p>＜災害・避難カードの例＞</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;"></th> <th style="width: 40%; background-color: #e0f2f1;">「〇〇」の注意</th> <th style="width: 40%; background-color: #ffe0b2;">土砂災害</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スイッチ (避難の用意)</td> <td>スイッチ：〇〇川の水位が〇〇cm、避難準備・高齢者等避難開始 スイッチ：〇〇川の水位が〇〇cm、洪水警報の危険度分布で「濃い茶色」、避難勧告</td> <td>スイッチ：土壌雨量指数の3時間後予測値が〇〇〇、避難準備・高齢者等避難開始 スイッチ：土壌雨量指数の3時間後予測値が〇〇〇、危険な兆候、避難勧告</td> </tr> <tr> <td>スイッチの 情報入手</td> <td>京都府河川防災情報(京都ホームページ)、気象庁ホームページ</td> <td>京都府土砂災害警戒情報(京都ホームページ)、各自</td> </tr> <tr> <td>避難先 (以上避難場所)</td> <td>〇〇公民館</td> <td>〇〇公民館</td> </tr> <tr> <td>避難先 (以上緊急避難場所)</td> <td>〇〇小学校</td> <td>〇〇小学校</td> </tr> <tr> <td>避難先 (以上他の避難場所)</td> <td>〇〇公民館</td> <td>〇〇集会所</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">36</p>		「〇〇」の注意	土砂災害	スイッチ (避難の用意)	スイッチ：〇〇川の水位が〇〇cm、避難準備・高齢者等避難開始 スイッチ：〇〇川の水位が〇〇cm、洪水警報の危険度分布で「濃い茶色」、避難勧告	スイッチ：土壌雨量指数の3時間後予測値が〇〇〇、避難準備・高齢者等避難開始 スイッチ：土壌雨量指数の3時間後予測値が〇〇〇、危険な兆候、避難勧告	スイッチの 情報入手	京都府河川防災情報(京都ホームページ)、気象庁ホームページ	京都府土砂災害警戒情報(京都ホームページ)、各自	避難先 (以上避難場所)	〇〇公民館	〇〇公民館	避難先 (以上緊急避難場所)	〇〇小学校	〇〇小学校	避難先 (以上他の避難場所)	〇〇公民館	〇〇集会所	<p>タイムラインとあわせて、「災害・避難カード」を作成します。</p> <p>「災害・避難カード」は、タイムライン完成後に各自が記入し、いつでも確認・行動ができるようにするものです。</p>
	「〇〇」の注意	土砂災害																	
スイッチ (避難の用意)	スイッチ：〇〇川の水位が〇〇cm、避難準備・高齢者等避難開始 スイッチ：〇〇川の水位が〇〇cm、洪水警報の危険度分布で「濃い茶色」、避難勧告	スイッチ：土壌雨量指数の3時間後予測値が〇〇〇、避難準備・高齢者等避難開始 スイッチ：土壌雨量指数の3時間後予測値が〇〇〇、危険な兆候、避難勧告																	
スイッチの 情報入手	京都府河川防災情報(京都ホームページ)、気象庁ホームページ	京都府土砂災害警戒情報(京都ホームページ)、各自																	
避難先 (以上避難場所)	〇〇公民館	〇〇公民館																	
避難先 (以上緊急避難場所)	〇〇小学校	〇〇小学校																	
避難先 (以上他の避難場所)	〇〇公民館	〇〇集会所																	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p><b>タイムライン作成後の取組</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>タイムラインを使った訓練を行って、手順を確認し、大雨の際に活用できるようにしましょう</li> <li>大雨の際のタイムラインの活用や訓練を重ねて、使いやすくなるようタイムラインを見直していくことが大事です</li> </ul> <p style="text-align: right; font-size: small;">37</p>	<p>ワークショップの参加者に対して、タイムラインが完成して終わりにすることなく、実際に訓練や災害時にタイムラインを活用して、随時バージョンアップしていくように伝えます。タイムラインを使いやすくなるよう見直していきましょう。</p>																		

**【参考事例】**

地区	話し合い①	話し合い②
福知山市 報恩寺地区	スイッチには土壌雨量指数の3時間後予測値、洪水警報の危険度分布、危険な兆候(河川水位の上昇)が選定されました。	土壌雨量指数や洪水警報の危険度分布の情報は、自治会役員が入手、河川の状況は消防団員が確認し、自治会長を通じて住民に伝達することとしました。
舞鶴市 京口地区	スイッチには河川水位、洪水警報の危険度分布が選定されました。	地区内で組織される「見守り隊」がスイッチを確認、また見守り隊と民生委員が高齢者等要配慮者への避難呼びかけや支援を行うこととしました。
綾部市 施福寺地区	スイッチには土壌雨量指数の3時間後予測値の他、危険な兆候(小川から水があふれる、山水が激しくなり、濁る)が選定されました。	地区で決めた「情報・広報班」がスイッチとなる情報を収集し、自治会長を通じて住民に伝達することとしました。

(4) 訓練～検証～見直し

3回のワークショップを通じて完成したタイムラインは、訓練などにより大雨の際に活用できるようにしましょう。また、災害時でのタイムラインの活用や日常の訓練を重ねることで、使いやすくなるよう随時見直していくことが大事です。

---

**【問い合わせ先】**

京都府 府民生活部 防災消防企画課  
災害対策課

電話：075-414-4466  
電話：075-414-4475

---